

2022年8月7日、濱田雅子のオンライン服飾講座の概要

テーマ 写真が語るアメリカの民衆の装い（その3）
—1870年代の民衆の生活文化を垣間見る—

濱田雅子

I はじめに

2021年11月28日から『写真が語るアメリカの民衆の装い』というテーマで、濱田雅子の「服飾からみた生活文化」の講座を開催して参りました。今回は3回目（濱田雅子の「服飾からみた生活文化」シリーズ第23回）となります。お陰様で本講座の基礎的文献である濱田の新刊書『写真が語る近代アメリカの民衆の装い — Guidebook of Joan Severa: Dressed for the Photographer, Ordinary Americans and Fashion, 1840-1900—』（株式会社 PUBFUN 2022年4月15日）も無事、出版に至りました。本書は、濱田のライフワークであり、思えば、激動の空間と時間をくぐり抜けて、誕生に至りました。何か一つでも欠ければ、このような書物をPOD出版することは能わなかったものと思われま

す。原書の入手、翻訳、本書の執筆に26年、かかりました。その間、阪神淡路大震災でマンションが全壊した両親の支援、両親が他界、自分自身の闘病生活（脳内出血）、引っ越しなどを掻い潜って、本書の誕生に至りました。ずっと手放さずに、取り組んで参りました。

私のささやかなライフワークです。亡き父（小川政恭、ギリシャ文学研究者、神戸大学名誉教授）の「雅子、研究をやめてはいけないよ」という言葉をとても大切に参りました。父はライフワーク『ホメロスのイーリアス』の翻訳書を世に出すことなく、阪神淡路大震災の二次災害（院内感染）で、1995年9月14日に亡くなりました。どんなにか無念であったことでしょう。

さて、本論に入ります。現在のオンライン講座の資料や情報は、濱田の本書に収録しています。

ご承知下さってますように、執筆はもとより、装丁・編集・表紙デザインもすべて自力で取り組みました。

出版社の審査を通過するのは、なかなかハードルが高かったですが、無事、合格して、ペーパーバックと電子書籍の出版に成功し、安堵しています。写真の精緻さと美しさには、息を呑みます。関係者の皆様のご支援に、心から感謝いたしております。

このGSの場で、心置きなく本書の内容を報告させていただけることに、そして、また、ご参加下さっている皆様から、貴重なご意見やご感想をいただけることに、心から感謝いたしております。コロナ禍、そして、あまりにも非人道的な戦争という世界情勢の中であって、生きとし生ける生命体として、文化的遺産を真摯に築き上げてゆくことの大切さ、築き上げた文化は、決して破壊してはならないという心の叫びを日々受け止めながら、コツコツと本書の製作に取り組んで参りました。今回の講座へのご参加を何卒よろしくお願い申し上げます。気持ちを新たに、準備に取り組みさせていただきます。

II 全体構成

本講座の全体構成は、次の6項目です。

1. 濱田雅子の新刊書出版のお知らせ 内容紹介 チラシ参照
2. 1870年代の歴史的背景
 普仏戦争 アメリカの服飾への影響
 1870年代アメリカの歴史的背景 南北戦争と南部再建
 南部再建の挫折とファッションの関り
3. アメリカの産業技術史—ミシン パターン 既製服
4. 1870年代ヨーロッパの服飾
5. 1870年代写真に見るアメリカの民衆の装い
 階級的視点からみた女性服
 既製服：男性服 子ども服
 移民の服装
6. まとめ

III なぜ、南北戦争と再建期に焦点をあてるのか。

濱田は、神戸大学文学部史学科西洋史学科の助手をしていた時代に、下記の論文を書いています。この論文で扱った共和党急進派のサディウス・スティーヴンズは、南部「再建政策」として、解放奴隷に「40 エーカーの土地と一頭のラバ！」という政策を提案しています。

サディウス・スティーヴンズの南部「再建政策」—反乱者財産没収法案を中心に—(著者旧姓小川雅子) 神戸大学文学会/研究 44, 80-120 1978年

この政策には衣服に関する言及はありません。濱田自身が、服飾研究に向かったのは、助手の任期が切れて、退職後、数年後のことです。当時は土地問題に関心が向いていました。現在は、南北戦争後の南部再建の挫折、衣服政策の実態に強い関心を抱いています。アメリカ史研究者の方々も、この問題は究明されていません。

1870年代アメリカの歴史的背景に関する講座でのお話の項目を列挙いたします。

- ① 南部再建の挫折
- ② 人種問題

1869. 2. 27 連邦議会、憲法修正条項第15条を發議

第1節 合衆国市民の投票権は、人種、体色又は過去における労役の状態を理由として、合衆国又は州によって拒否又は制限されることはない。

第2節 連邦議会は、適当な法律の規定によって、本条の規定を施行する権限を有する。

- ③ 南部再建期の共和党急進派のスローガン “40エーカーの土地と1頭のラバを！”
- ④ 南部再建の挫折とファッション動向

IV 本講座のハイライト：アメリカにおけるパターン・システムの発達

濱田は歴史研究者、服飾研究者であり、衣服製作の技術者です。文化服装学院の通信教育で洋裁を2年間、学び、その後、夫の転勤先の東京、富山、鹿児島洋裁学校で立体裁断・平面裁断を学びながら、既製品、プレタポルテ、オーダーメイドの仕事に、10年、近く携わっていました。その間、わが国のアパレル業界の労働条件の過酷さを、いやというほど味わいました。その過酷さは、まさに『女工哀史』です。私は、この経験については、本には書いていませんが、私を服飾研究の世界に駆り立てたのは、外ならぬこの過酷さから抜け出る対処法を探し求めた結果であります。

服飾研究に携わるなかで、このような技術を習得したことのプラスの面を実感するようになりました。一口では言い表せませんが、技術を習得した人と、していない人の書く文章のなかに、如術に現れてくるのです。理論と実践は、車の両輪なのです。

私は手元の生地を素材として、デザイン画を描き、パターンを引いて、生地を裁断して、イメージした衣服を作るのがとても好きです。ですが、家族の衣服だけではなく、商品生産に携わっていたので、その厳しさは、衣服生産を苦にさせ、ミシンを押し入れにしまいたくなるほどでした。そのため、大学院に進学し、大学教員として、洋裁教育にも携わるようになりました。そして、好きな服作りは、国際会議での衣装展への出品に限って行ってきました。作品をアメリカ服飾社会史研究会のホームページから紹介させていただきます。現在は、著書の執筆活動に専念しています。

今回の講座では、19世紀アメリカにおける産業技術史のなかの衣服製作のための型紙の発達に焦点をあてて、やや専門的なお話をさせていただきます。きっと、とても面白いと思います。発明や特許というものが、技術の世界を飛躍的に発展させてきた様相をお楽しみ下さい。

デモレスト・パターンやバタリック・パターンをご存じですか？後者は洋裁経験のある方なら「ああ、あれね」と思い当たることがあるかもしれません。

VI 1870年代写真に見るアメリカの民衆の装い

階級別にみた女性服という視点から、金持ちの女性と労働者(新聞配達、織物工場の女)の女性の服装を紹介させていただきます。また、当時の既製服を着ためずらしい男性服と子ども服が写った写真を紹介させていただきます。

VI まとめ

「1870年代に入ると、最初の2、3年は不景気で新しい服を購入するだけの余裕はなかったのだが、衣服に関して徐々にではあるが社会が全ての人に対して流行を追わせていた」とセヴラ女史は述べている。社会と流行の結びつきを示す見解がセヴラの文献に述べられている。

社会が流行へ、流行へと後押ししているように思える。さらにもっと強い意見が述べられている。それは、新しい服を手に入れる能力が重要視されており、「流行に遅れてしまったら社会追放を蒙るであろう…」とセヴラ女史は考えているのである。社会追放とまで大々的に述べられているので、流行を追って服を着ることができている情熱は計り知れないものであろう (Joan Severa, p. 294)。

参考文献

- ① Joan Severa: *Dressed for the Photographer, Ordinary Americans and Fashion, 1840-1900-*, Kent State University Press, Ohio, 1995.
- ② 濱田雅子著『写真が語る近代アメリカの民衆の装い — Guidebook of Joan Severa: *Dressed for the Photographer, Ordinary Americans and Fashion, 1840-1900-*』 (株式会社 PUBFUN 2022 年 4 月 15 日)
- ③ 濱田雅子著『アメリカ服飾社会史』 (東京堂出版、2009) 品切れ
- ④ 濱田雅子著『アメリカ服飾社会史』重版 (株式会社 PUBFUN 2022 年 秋 出版予定)
版元の東京堂出版から濱田が出版権を取得しました。株式会社 PUBFUN からペーパーバックと電子書籍を出版させていただきます。事項索引、人名索引も作成し、初版の誤字・脱字の修正、内容の補足修正を完了しています。写真もカラー写真を数多く掲載しています。これから最終チェックをして、出版申請に進みます。本書の重版出版により、濱田雅子の『アメリカ服飾社会史』シリーズ (1~4) の POD 出版と電子書籍が一堂に会します。

【『アメリカ服飾社会史』シリーズ (1~4)】

- シリーズ 1 『アメリカ服飾社会史』重版 (株式会社 PUBFUN, 2022 秋予定)
- シリーズ 2 『パリ・モードからアメリカン・ルックへ—アメリカ服飾社会史近現代篇—』 (株式会社インプレス R&D, 2019 年)
- シリーズ 3 『アメリカ服飾社会史の未来像—衣服産業史の視点から—』 (株式会社インプレス R&D, 2020 年 4 月)
- シリーズ 4 『20 世紀アメリカの女性デザイナーの知られざる真実—アメリカ服飾社会史続編—』 (株式会社インプレス R&D, 2021 年 4 月)

濱田雅子著「『アメリカ服飾社会史』シリーズ誕生への道のり」 (アメリカ服飾社会史研究会会報 No.13 掲載予定) <https://www.american-mode.com> に電子版掲載予定